

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	1696416
園名	板橋向原幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

体操

<テーマ設定理由>

当園では、広い園庭を活かし体操の専門講師の先生をお招きし、年間を通して体操指導を実施しています。各学年体操の種目は異なりますが、体操指導の日を心待ちにするほど体操が好きな園児が多いため今回テーマを設定しました。

例として年長組では運動会でクラス対抗のリレーを行いますが、練習を始めると、子どもたちはとても活動に興味を持ち、中にはどのようにしたら他のクラスより速く走れるのか話す等熱中する様子がみられました。このような興味関心を深めると共に、子ども達同士の関わりを通して、心を一つにしお友達と協力する力を育めればと思います。

2. 活動スケジュール

<体操指導のスケジュール>

満3歳児：1学期 3回、2学期11回、3学期 8回
年少：1学期 3回、2学期11回、3学期 8回
年中：1学期14回、2学期15回、3学期10回
年長：1学期11回、2学期13回、3学期 7回

<主な種目>

かけっこ、マット、ボール、縄跳び、大縄、マラソン、プール、鉄棒、リレー、ドッジボール、バルーン（学年、時期に応じて実施）

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境設定
- ・活動中の子供の姿・声、子ども同士や教諭との関わり等を記載ください。

<環境設定>

- ・体操講師の先生を年間でお招きし、担任と共に上記スケジュールの通り、体操指導の時間を設けた。
- ・様々なことに興味を持てるように上記の通り複数のカリキュラム組んだ。カリキュラムに応じて、跳び箱や鉄棒等環境を整えた。
- ・体操指導の時間以外にも、自由遊びの際に、ボールやリレーのバトン、縄跳び等園児の興味に合わせて、使えるような環境を整えた。
- ・体操指導以外の時間に廃材や教材を用意し、子ども達自ら体操で使用する道具（リレーのバトンや、バルーン）などを作れるような環境を整えた。
- ・適宜体操指導や活動の様子を写真や動画で撮影出来るよう各クラスのタブレットを活用した。

<活動内容・子どもの姿>

【リレー】

リレーは、体操講師の先生からルールを教えていただくことから始まりました。初めの頃は、自分の順番を待つ間にドキドキしている様子の子もたちも見られました。そんな中、「どうしたら速くなるか?」という声があがり、講師の先生からバトンパスの方法や、走っている途中で靴が脱げても取りに行かず走り抜くことなどを教えていただきました。クラスでも話し合いの時間を持ち、「アンカーは長いから速い方がいいね。」「緊張するけど、皆で頑張ろう」といった意見が出ました。活動が進むにつれて、友達を応援する姿や励まし合う様子が増え、クラスの気持ちが一つになっていく様子を感じられました。

【ドッジボール】

練習を重ねる中で、「どうしたらもっと強くなれるんだろう?」という声があがり、みんなで作戦会議を行いました。「周りをよく見る!」「ボールを高く投げる!」など様々な意見が出る一方で、「でもドッジボールが苦手なお友達だっているよね…」と、友達を思いやる言葉も聞かれました。話し合いの結果、「友達が当たらないように名前を呼んで助けてあげる!」「当たったらその分皆で頑張る!」と気持ちがまとまりました。自由遊びの時間に皆で話し合った作戦の練習を重ねたことで、本番では、「ナイスキャッチ!」「頑張れ!」といった声援や拍手が響き渡り、大いに盛り上がりました。互いに声を掛け合いながら、クラス一丸となって取り組む姿に、子どもたちの成長を感じられました。

【バルーン】

バルーンの活動では、毎回の練習で講師の先生から教えていただいたポイントを振り返りながら、「どうすればもっと上手になるか」をクラスで話し合い、目標を持って取り組んできました。「ロケット」という技がうまくいかない時には、「秘密の特訓しよう」と、自由遊びの時間にも練習しようとする姿が見られました。しかし、バルーンの大きさから室内では難しいという課題があり、「お部屋で出来るバルーンを作ろう」という声があがりました。そこで、教材庫で見つけたゴミ袋や不織布を使い、クラスで特製のミニバルーンを作りました。このミニバルーンは室内外で活用され、楽しく練習を重ねることができました。また、演技を動画で撮影し、みんなで見ながら「かっこよく歩こう」「声をもっと出そう」と話し合う姿も見られました。こうした積み重ねの中で、本番ではとても素敵な演技を披露することができました。



4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・体操指導を通して一人ひとりがバラバラに頑張るのではなく“みんなで力を合わせて頑張る”という経験を通して、友達の良さや頑張りに気付くきっかけになった。そこからは、頑張りを見せる友達に対して「〇〇くんが格好良い」「〇〇ちゃんがお姉さんみたい」と褒め合う姿や、不安を感じ涙する友達に対して「泣かないで」「大丈夫だよ（背中を擦る）」と安心できる様に声を掛ける姿等、自ら友達を気に掛ける優しい姿が見られる様になり、大きく成長した事を感じています。
- ・子どものやりたいという気持ちを大切にすることで、活動が展開し、体操の活動だけでなく、制作の分野の活動に繋がっていくなど、体操を通じた成長以外の部分の育ちにもつながった。
- ・技術的な部分においても、子ども達がもっと上手く出来るようになりたいという気持ちを大切にすることで、自ら体操の講師の先生にアドバイスをもらいに行ったり、自由遊びで練習を行うなど、主体的に関わる様子が印象的でした。
- ・今後は、より活発な意見が出せるよう、今回より少人数での意見交換の場を増やしたり、環境面でも今回制作活動に繋がっていったように体操をきっかけに園児の興味関心が広がる仕掛けを検討したいと思います。